

石川大使による挨拶（概要）

カイゼン・マネージメント・ワークショップ

中東協力センター及び日本・エジプト経済合同委員会共催

3月22日

- 1.（アラビア語によるグローバル化と古い文化文明のバランスを取る重要性を指摘するスピーチに続けて、）日本とエジプトは、1868年の明治維新前より交流を開始しており、1862年と1864年にサムライによる使節団が2度に亘り派遣された。日本は、1868年の明治維新以降に強固な資本主義による近代化を達成したと言われるが、実際には、17世紀はじめから三井や住友といった商家が存在しており、近代資本主義の基礎を築いていた。とは申せ、明治維新时期に「西洋」との対峙をどう乗り越えるかは大きな課題となり、その時期にやはり同様の問題を抱えていたエジプトを手本とする調査や著作もあらわされた。
2. 日本とエジプトは、グローバル化という津波に立ち向かわなければならず、両国がお互いの文化等を保ちつつ、協力していく必要がある。
3. カイゼンは、各個人の積極性及びコミットメントを促進するものであり、国造りにおける鍵となる要素である。日本では、「人は石垣、人は城」というが、まさにカイゼンが行われるようになれば、エジプトは堅実な国造りを達成することができるであろう。